

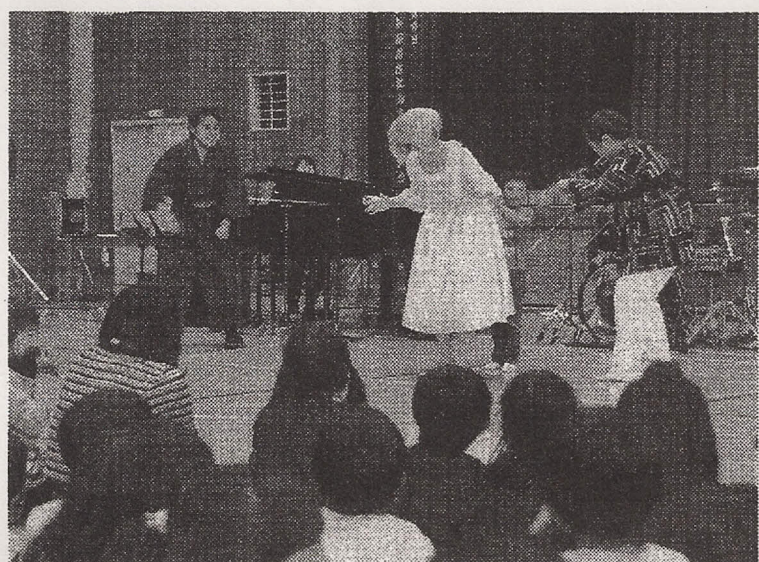
彦部小でオペラ劇場

胡堂記念館
協力会主催
音楽の楽しさを知る

紫波町立彦部小学校（外山敏校長、児童52人）で25日、子どもたちに音楽の面白さを伝える楽団、エディートンによるスクールコンサート「オペラ劇場・おもしろ作曲家」が開催された。野村胡堂・あらえびす記念館協力会主催。児童と地域住民あわせて100人ほどは、間近で演じられるオペラとトークを楽しんだ。

露。児童はオペラ歌手の発するマイクを通さない肉声や、楽器紹介で披露されたドラムアドリブの迫力に圧倒。特別ゲストのバス歌手、渡部智也さんがモーツァルトや滝廉太郎などにふんして行う司会も軽妙で、児童たちはオペラの歴史や発展の経緯などに聞き入っていた。

オペラ「ホフマン物語」から披露されたオリンピアのアリアでは、児童が実際にステージに上がる。ねじ仕掛けの人形オペレッタが歌う設定のアリアは曲中何度となくねじが切れ、演奏が止まってしまつ。立候補した児童はオペレッタのねじを巻く係として出演。笑顔でねじを巻き大役を果たした。



動かなくなったオペレッタのねじを巻く児童

超えられるように頑張りたい」と感想を話した。6年生の佐藤史英君（12）は「ドラムの音がかつこよくて、やってみたいと思った。

いつかはあんなかつこいい職業に就ければいいなと思った」と夢を語った。

エディートンの代表ソプラノ歌手の土井尻明子さんは「音楽は演奏するだけでなく反応が返ってくるもので、これもコミュニケーションの一つだと感じている。子どもたちは元氣いっぱい反応も大きかった。これからも音楽を通じてコミュニケーション、相手の気持ちをわかる大切さを伝えていけたら」と話している。